

平成 25 年度・鎌倉市交通計画検討委員会 第 4 回委員会 議事録

日時 平成 25 年 5 月 30 日（木） 午後 3 時～午後 5 時

場所 鎌倉市役所 第 3 分庁舎 2 階 災害対策本部室

議事

1. 確認事項

【事務局】4 点確認したい。まず 1 点目は情報公開についてである。鎌倉市交通計画検討委員会条例施行規則第 4 条では、「会議は、公開とする。」としている。従って、今回配付した資料は、全て情報公開の対象としたい。

2 点目は傍聴についてである。今回の鎌倉市交通計画検討委員会の傍聴者を広報やホームページにおいて募集したところ 5 名の申し込みがあった。よって、傍聴も認めたい。

3 点目は本日の会議の議事録についてである。原則公開になるので、作成次第、委員の皆さんに確認の上公開するが、発言者の氏名は非公開とする。

4 点目は第 3 回の鎌倉市交通計画検討委員会議事録(案)についてである。委員の皆さんに内容の確認をお願いし、要望があった箇所は修正を行い、最終案は、今回の資料の中に事前に送付している。修正が無ければ、この内容を持って確定したい。

【委員長】事務局から「資料は全て情報公開の対象」「傍聴者への公開」「議事録の公開」「第 3 回鎌倉市交通計画検討委員会議事録(案)の確定」について確認があったが、意見はあるか。

【委員一同】異議なし。

2. 議題

(1) 平成 25 年度社会実験（案）について

（事務局から資料の説明）

【委員長】事務局からの説明の内容について議論をしていきたい。最初に、専門部会の部長である副委員長から補足があれば伺いたい。

【副委員長】専門部会の議論の内容から、少し紹介したい。資料 1 の 1 ページにあるように、5 月 10 日に今年度最初の専門部会があった。世界遺産登録関連でイコモスによる結果が出た直後だったので、専門部会でもそのことが話題になった。以前は（仮称）世界遺産手形という名称で計画していたが、今度もこの名称を使い続けるのは良くないだろうということで、資料 3 にある通り、委員の皆さんに 25 の案を出して頂いた。本日手形の名称についてこの場で確定したいと思う。社会実験の内容は昨年度も委員会で報告したが、専門部会で色々なアイデアを出して頂いた。その実現性を議論した結果、今年度の社会実験では、在来の路線バスとは逆周りに循環するバス、環境手形の拡大、スマートフォン等による交通情報、ある

いは市民の呼びかけなどをできる範囲で実施することを提案している。循環バスは特に混雑時に優位性が出ると考えられるため、実施時期は参拝客が多く来る1月の正月明けの連休等の休日に実施してはどうかという提案である。

【委員長】紹介して頂いた内容について意見交換をしていきたい。資料3の手形の名称に関して、「世界遺産」という言葉を使わない新しい名称を考えるということである。着色されている4つが上位と書いてあるが、どのような状況だったのかももう少し説明して頂きたい。

【事務局】第3回検討委員会及び第7回専門部会で、名称についての意見があった。更に、各委員から幾つか名称の候補を出して頂き、一人3票で投票した。その結果、4番「鎌倉めぐり手形」、8番「鎌倉観光手形」、16番「古都散策きっぷ（手形）」、23番「いざかまくら手形」が最大票（5票）であったため、今回これらを上位として選定した。

【委員長】5票ということは、かなりばらけたということか。何人が投票したか。

【事務局】14名が投票した。一人最大3票で、必ずしも3票投票していない方もいる。

【委員長】14名から選んで頂いたら、今の4番・8番・16番・23番が5票ずつで、他はそれ以下だから、3分の1の方がこれらを選んだことになる。名称は本日決めなければならないのか。

【事務局】今年度の国土交通省の社会実験制度に申請したいと考えている。現在は手形の名称を（仮称）鎌倉めぐり手形にしているので、この委員会で決めて頂ければ、新たな名称で申請したい。

【委員長】この4つの中から多数決で選ぶということで良いか。

【委員一同】異議なし。

【委員長】特に異論がないようなので、この4つの中から一つを選ぶことにしたい。なお、今日の出席者は26名である。一人1票でこれから挙手をして頂きたい。それでは順番に上からいきたいと思う。

- 4番「鎌倉めぐり手形」・・・・・・・・・・ 14名
- 8番「鎌倉観光手形」・・・・・・・・・・ 5名
- 16番「古都散策きっぷ（手形）」・・・・・・・・ 4名
- 23番「いざかまくら手形」・・・・・・・・・・ 3名

合計26名からの挙手による投票の結果、過半数の14名が4番の「鎌倉めぐり手形」を選んでいるので、以後、「鎌倉めぐり手形」という名称とする。それではこの手形も含めて、部会から提案のあった内容、あるいは今年度の委員会の進め方について意見を頂きたい。

【●●委員】世界遺産登録について、イコモスから不記載との勧告がなされた後に、市長のコ

メントが新聞に出ていたが、その中でロードプライシングの話をしていたらしい。現在検討している社会実験の内容を飛躍するものであり、そのことを事務局は承知しているのか。

【委員長】世界遺産の登録が残念ながら見送られ、推薦を取り下げた。その後の対応について、事務局としてはどのように考えているのか説明して頂きたい。

【事務局】市長が記者発表の時にロードプライシングと、正月三箇日の交通規制の拡大をしていこうという発表をした。以前から市長はロードプライシング、正月三箇日の交通規制を検討していきたいという考え方を持っている。具体的には今後、学識経験者や委員会等で進め方を協議しながら決めたい。市長の考えを全て把握している訳ではない。また、事務局として、市長自らこの場で直接考え方を説明して頂くことも考えていきたい。

【委員長】推薦を取り下げた後は、市として何も意思決定が行なわれていないという理解で良いか。

【事務局】取り下げた段階なので、今後どのように進めるかは、まだ整理していないと聞いている。交通渋滞対策やごみ問題、色々なことが関係してくるので、整理をして取り組んでいくものとする。

【●●委員】市長が記者会見で言ってしまうと、そのように思われてしまう。この委員会は、着実に社会実験をやりながら次に進めようとしている。そこに齟齬が起きないかを心配している。市長が言っていることと、この委員会でやっていることが違ってしまったら困るので、真意を確認してほしい。

【事務局】●●委員が述べたように、委員会で議論する中身が違ってしまうと問題がある。市長の考え方を確認しながら、市長自ら委員の皆さんに報告、説明をする機会を設けられるように事務局で調整したい。

【委員長】新聞情報では、市長は世界遺産登録への再推薦へ意欲を示したと書かれていたのですが、もしそう考えているのであれば、一度説明して頂いた方が、今後の対応を考える上で良い。

【●●委員】資料1の4ページに国土交通省へ提出する申請書の提案内容が書かれているが6行目の「第一段として」の「段」というのは、「弾丸ライナー」等の「弾」ではないか。

【事務局】訂正する。

【委員長】国土交通省に申請するときは、注意していただきたい。他に意見はあるか。

【●●委員】この社会実験案についての事務局の説明で、県道金沢鎌倉線の渋滞を解消するというのは良く分かった。ただ、鎌倉の交通政策で、例えば海沿いの国道134号や、北鎌倉から鎌倉に入る道もかなり渋滞する。今回の社会実験が良い結果を出すことで、その海沿いの国道134号や北鎌倉から鎌倉に入る道の交通渋滞がどの程度解消されるのかを伺いたい。

【事務局】平成7年と昨年に市民アンケートを行った結果、一番危機感を持たれている地域が、二階堂・浄明寺・十二所であった。その対策として、どうしたら地域の方に公共交通を使って、鎌倉に早く着くことができるかを専門部会で議論した中で、循環バスの提案があった。従って、今回の社会実験が国道134号や県道横浜鎌倉線の渋滞の解消になるかということ、正直に言って解消にならない。

【●●委員】少し補足すると、北鎌倉の方面から来る人や、国道134号の江ノ島方面から来る人は、軌道交通もある。それに比べて県道金沢鎌倉線の沿道は、道路交通だけである。そういった危機感であり、例えば病院に行くにも時間がかかるということである。

【●●委員】今回の社会実験の後に、国道134号や県道横浜鎌倉線に対して社会実験を行う考えはあるか。それともまず、この社会実験で結論を出すということか。

【委員長】専門部会ではどのような議論があったのか、説明をお願いしたい。

【副委員長】全体として混雑を緩和する方法がないかということについては、昨年度の専門部会で、委員の方から色々な案を出して頂いた。ただ、残念ながら、それをいざ実現に結びつけようとする、近隣市との関係等色々あり、すぐに実施するのは難しそうということになった。今回の提案は、恐らく一番渋滞が厳しいと言われている県道金沢鎌倉線から実験を行う。渋滞を緩和するのは難しいが、渋滞していても市民の方がバスで鎌倉駅まで比較的短時間で行けるような方法ということで、逆周りの循環バスが提案されている。残念ながら、根本的な渋滞対策については、今回提案できていない。

【●●委員】私は専門部会のメンバーではないので、専門部会で何を検討されたのかが良く見えていない。専門部会の議事録を委員会の席でも配付して頂けると良い。箇条書きだと、専門部会でこういう検討がされたということしか分からない。それから、国土交通省から上限1,000万円の補助が出る社会実験に応募して、資料1の4ページのA・B・C・Dの4つの内容を実現するということだが、県道金沢鎌倉線のバス路線を限ったのは、今までのデータがあるからということか。平成7年と昨年、この路線のデータを収集しているということだが、それだけのためにこの路線を選ぶというのは、もったいない気がする。せっかく1,000万円もお金を使うのであれば、国道134号等、他の路線のデータも取るなど、もっと幅広く実験をして頂きたいと思う。

【委員長】まず、議事録について、事務局に説明をお願いしたい。

【事務局】この議論については、冒頭でも説明したように、情報公開の対象としている。具体的には、鎌倉市のホームページの「暮らし・環境」の中に「交通」というカテゴリーが出てくる。そこにこれまでの検討委員会や専門部会の全ての資料と議事録が掲載されている。そちらの方で確認して頂けるとありがたい。もし、ホームページを確認することができないということであれば、事務局で用意をしたいと思う。

【●●委員】ホームページで専門部会の議事録が載っているのであれば、今度はそちらを見る。

【委員長】それでは、先程と同じような意見だが、社会実験の実施箇所を広げることについては如何か。

【副委員長】国道 134 号については、軌道系の交通もあり、パーク&ライドが可能な状況なので、例えばスマートフォンによる情報提供等で、パーク&ライドの利用を促す。実験の評価についても、パーク&ライドの利用率や、それによって国道 134 号の混雑が緩和されたのかを検証する。北鎌倉については、残念ながらまだパーク&ライドの用意ができないので、やはり色々な情報提供によって経路を変えて頂くとか、家を出る前に公共交通の利用を促すなどが必要である。その効果は交通量等を検証しても良いと思う。

【委員長】本内容については、関係する方たちの意見の中からアイデアが出てきたということなので、他の地域について、今回の社会実験と同じことができるか、少し意見を頂けると、今の部分がはっきりすると思う。他の地域においても、この様なバスルートを探せるか。

【●●委員】私どもが運行しているところが北鎌倉から鎌倉の区間であるが、県道金沢鎌倉線と同じように渋滞が非常に激しく、定時制の確保は非常に困難な状況である。色々な施策を考えたが、当該地区は迂回ルートとしてバスが運行できる道路がない。長年、渋滞は問題であるが、現在のところ手を打てない状況である。

【委員長】今回の社会実験案ではハイランド方面を周ることができるので、そのようなアイデアが生まれたが、他の地区は迂回路を見いだすことができないので、同じようなことはできない。そのため、他の地区では別の方策を考える必要があるが、軌道系がある地区はそれに対応することになる。

【●●委員】過去のデータがあることも、実験を行う理由になるのではないか。

【委員長】過去のデータの有無による差はあるか。

【事務局】過去のデータを見て、今回この県道金沢鎌倉線の所要時間の変化を評価することになった訳ではない。例えば国から借りているバス IC データを見ると、全市的にどこが混雑しているのかは読み取れる。社会実験の中で、県道金沢鎌倉線だけを見ている訳ではなく、北鎌倉の方からの道路も国道 134 号の状況も見ている。

【●●委員】了解した。

【●●委員】この委員会でも、当初に過去の分析結果の報告があった。その上で有望な解決案があるものに対して社会実験をやってみてはどうかということであった。

【●●委員】●●委員が述べた様に、この件については専門部会で検討した問題であった。私は北鎌倉を通る江ノ電バスを利用しているが、他の代替道路もなく、バスの運行回数を減ら

してはどうかと提案したが、路線バスは客の有無に関係なく走り、市民の足となることが目的であるため、対策がない。狭い道の中でこの渋滞を解消するためには、混むところは思い切って諦めて、北鎌倉まで来れば、JRを利用して鎌倉駅に出ることはできる。ところが十二所は、車と人の両方の問題であるので、北鎌倉の路線とはまた別の重みがある。専門部会で商工会議所の方が逆周りするバスを提案し、それをバス会社の方が賛同され、何回かに分けて検討した結果、この路線を選んだということを記憶している。

【●●委員】この社会実験は、一步進んだと思う。今まで色々なアイデアがあったが、全然進んでいなかった。完全に渋滞は解消されないということだが、そもそも沿道の方は一本道で方法がなく、鎌倉駅に行くのに非常に時間が掛かっている。現状は、混んでいる時、車を利用する人のほとんどが逗子に出る。これは京急バスの路線の問題かもしれないが、逗子からはハイランドの頂上まで来ている。鎌倉駅からはハイランドの奥まで循環バスが運行している。鎌倉駅から逗子まで、ハイランドを通るルートがあれば、採算性の問題もあるが、渋滞でどこにも出られない問題が一つ解消されると思う。

【委員長】期待が高いということである。他の地区も良いアイデアがあれば、当然実験をやらなければならない。

【●●委員】鎌倉のバス路線の中で、バス同士のすれ違い場所が随分ある。鎌倉ではミニバスが運行されている路線もあるので、渋滞箇所や狭い道の路線をミニバス化するというのは不可能だろうか。当然、ミニバスにすれば乗車人数が減るということもあるだろう。今問題になっている場所ではないが、岩瀬の方に先日行った際、大型バスがすれ違えないので、どこかで待機していてすれ違う。もし可能ならば、ミニバス化すれば、すれ違いがもう少し楽にできるのではないかと感じた。

【●●委員】鎌倉の道路事情でミニバスや大型車を使用している路線など、色々ある。ただ、総じて言うと、鎌倉市内は道路も狭いが、乗客が非常に多い。そのため現状の輸送力から考えると、中型車と呼んでいる50人程度が乗れて若干車幅の狭いバスでも、朝の混雑時には乗客を途中で取りこぼしてしまう状況が出ている。そのような中で、現状の輸送力を維持しようとするれば、車両の小型化には限界があると考えている。特に朝晩の時間帯を考えると、1台で良かったバスが小型化すると2台必要になるなど、台数が増えることになり得るので、マイクロバスや小型の車両というのは路線を限った状況でしか使えない。

【●●委員】スマートフォンによる観光情報等の提供を検討しているということだが、大体車に乗っている人はナビゲーションを使っている。車に乗りながらスマートフォンは見て良いのか。電話していると違反だということで捕まるが、スマートフォンの方がもっと危ないと思う。最近、駅でスマートフォンに夢中になっている人にぶつかり、非常に危険だという話があるが、こういうスマートフォンの利用の仕方をどのように考えているか。

【●●委員代理】ただいまの発言は正にその通りだと思う。車載のナビゲーションは走行中にタッチ操作できないなど、ドライバーに対する配慮がなされている。スマートフォンはその辺りがないので、画面を注視しながらドライバーが運転する可能性がある。これは違反を助長する行為であるので、その辺りは事務局と相談したい。例えばこの施策を実施するのであれば、運転中は見ないような配慮をしなければならないと思う。渋滞情報をスマートフォンに載せるのはどうかという考えを我々も持っている。

【委員長】 具体的にもう少し詰めて頂き、どこまで出せるのかという話である。

【●●委員】二人以上乗っている場合もあるので、運転手に限っての話でもないのではないかと。

【●●委員代理】そこはこれからの議論だと思うが、やはりそういう可能性もあるということである。

【事務局】元々スマートフォンでリアルタイムの情報を出すのは、運転中を想定していた訳ではない。運転する前にパソコンを立ち上げて、渋滞情報を見ると時間が掛かるが、スマートフォンであれば比較的簡易に見られる。車を運転する前に情報を得るという目的で、スマートフォンを使ったら良いと考えていた。

【委員長】最近は多くの人が観光地に行く前に必ずホームページで情報を確認する。そういう時に、どれくらい混雑しているかが見られると良い。

【●●委員】これらは素晴らしい実験である。ただ、今回の社会実験の後に同じような実験はできないにしても、北鎌倉方面、あるいは国道134号に関しても何らかの社会実験をこの場で議論することで良いか。

【副委員長】資料1の11ページにある施策の検証で、右側の表に「もし、今回の実験で渋滞の緩和効果が得られなかった場合は、他の交通規制等を伴う次の手を考えざるを得ないのではないかと書いてある。今回の実験を経た後、この委員会で、次のステップをどうするかということになる。北鎌倉や国道134号を含めた渋滞解消を目指すことは変わらないと思うので、その方法について議論することになる。

【委員長】世界遺産に関するイコモスの勧告文の中に、交通問題が批評されており、観光客をコントロールしないままでは登録は難しいとも書かれている。世界遺産登録を目指すのであれば、さらに我々の工夫が求められると思う。

【●●委員代理】資料1の9ページにあるホームページのリンクについて1点報告する。日本道路交通情報センターのリンクについて神奈川県警察本部への確認が必要とあるが、リンクを貼ることは問題ない。ただ、日本道路交通情報センターと鎌倉市との間で手続きが必要になるので、これについては後ほど事務局に知らせる。

【委員長】今年の進め方についても皆さんから意見を頂きたい。資料1の1ページに今年度の実験の内容と委員会のスケジュールがあり、今日ここで今年度の社会実験の方向性が良いということになれば、具体的に国土交通省に申請する書類を事務局が作成し、申請することになる。その結果が8月頃には分かるので、それを受けて、次回の10月の委員会で実施内容について諮る。その後、検証を重ねて、恐らく3月頃に、実験の結果を踏まえた議論をする。以上のようなスケジュールで、その間に何度か専門部会を実施する。先程、専門部会の議論をどうやって共有するかという質問があったが、こうしたステップで良いか。何か更に「今年度こういうことに取り組もう」というような意見があれば何う。

【●●委員】実験費用は試算したのか。国土交通省から上限1,000万円の補助が出るということだが、その範囲でできるのか。それとも、もっと市の税金を使わなければならないのか。

【事務局】社会実験については、上限1,000万の中でできる予算を組み、申請をしたい。その他、今回の市の負担は、検討委員会の費用や、アンケートデータの整理等であるが、基本的には国土交通省道路局の社会実験の中で賄いたい。

【委員長】社会実験に採択されなくても実施する内容があるが、それは既に予算化されているという理解で良いのか。

【事務局】もし仮に社会実験の申請に通らなかった場合でも、できる範囲の予算は確保している。ただ、これは世界遺産関係の予算であり、(仮称)世界遺産手形をPRして実施すると考えていた。世界遺産登録が不登録となり、推薦の取り下げも考えられるので、財政当局と協議した上で調整していきたい。

【委員長】資料1の4ページに実験内容の仕分けが書かれている。スマートフォンのアプリケーションソフトの作成は選定されないと実施できないということなので、もし選定で漏れてしまうと、比較的小振りな、すぐできる話になると思うが、是非予算化して頂きたい。

【●●委員】全体として、鎌倉市の交通政策に対する取り組みが、市民や観光客に周知されていないという印象がある。社会実験が通らなくても是非、今年度末の3月くらいに、社会実験の成果をシンポジウム等で報告して、市民あるいは観光客の皆さんと成果を共有する場を作ってはどうか。まだ社会実験もやっていないが、そういったことも含めて、どうやって市民の皆さんに社会実験を広く知って頂くかを、次回以降に議論ができれば良い。

【委員長】世界遺産登録が一旦取り下げられた場合には、仕切り直しの議論を行うことになると思う。委員会は、それと同じ方向性で議論しなければならないし、世界遺産登録の一翼を担いたいという気持ちもある。いつの段階になるのか分からないが、今後の世界遺産に対する取り組み方針について、市ないし関係団体としての方向性を紹介して頂き、その中で今年度実施した方が良い内容について積極的に取り組めば良いと思う。当面、今年度予算の範囲での実験内容を議論し、特にこれまで大変困っていた状況について、「逆方向に周ったらひ

よっとしたらうまくいくのではないか」というアイデアが出た。これは是非実施して頂き、果たしてどういう問題があるのかを確認したい。ただし、方向性が出れば「世界遺産のために、この実験をやりました」と言っても説明にはならないので、世界遺産登録に取り組むのであれば更なる思い切った施策をやらなければならないと思う。その辺りは今後の市や関係機関の議論を待って、我々も同時に参加して議論していきたい。地元の人たちの中ではどのようなニュアンスで捉えられているのか、何か発言があれば頂きたい。多分これから少し時間を掛けて、仕切り直しの方向性について、状況を確認し、今後交通政策として取り組むべき課題を是非考えていきたい。

【●●委員】私は世界遺産の協議会もやっているが、例えばドナルド・キーンのような人を呼んで講演して頂くのは如何か。彼が言うには、とにかく昔から、歩くしか手段がない時代のまちを守るのに、道をどんどん広くすることは意味がないということである。世界遺産に関係なく、鎌倉のような古い歴史的な町の風情を保ちながら交通問題に対処するため、歩くことを目標にすることは、市民も分かっていると思う。この委員会でも、できるだけ歩いて、公共交通機関を利用して頂くという大きなポリシーでやってきた。それでも人の命に関わるような、鉄道も何もない県道金沢鎌倉線が一番問題でないかということであった。そのような地区から実験を行おうというのが、専門部会からの提案だと思う。また、車で観光に来る方は、車内でラジオを聞いたり話をしたりして、いくら混んでいても楽しい時を過ごしている。私は車を追い抜きながら歩くと、そのように見える。それにつけても特異日については何とかしなければいけないというのが今回の提案でもある。そして、それを更に良くしようという話では、県知事や市長も言われている、ロードプライシングという話もあるので、正月三箇日のように、「車では鎌倉に入れません」というような検討も必要である。一方では、普段の社会生活で、車が利用できなくなったら困るということは、商工界からもあると思う。そのようなことを勘案した結果、今回の社会実験案はかなりの的を絞った提案だと思う。

【●●委員】十二所の人が買い物に行く場合、自動車やバスに乗れないような状態であり、「いくら混んでいても楽しい。」というのは可哀想である。世界遺産については、実は私の町内では必ずしも新聞報道にあるような「市民がこぞって希望している」のではなく、むしろ「世界遺産になって欲しくない」というのが正直なところである。何故なら、人が増えると、交通問題等が発生し、非常に困る。要は、世界遺産に必ずしも賛成でないということに加え、先程この委員会がそれに迎合するような、それに対して必要なことはやるべきだという雰囲気だが、私はそうでなくて、あくまでも交通としてやって、それが結果として世界遺産に繋がるのなら繋がっても良いし、足を引っ張るのなら引っ張っても良いと思う。とにかく「交通」という純粋な切り口でやるのがこの委員会である。胴元が行政なので、観光業者等に押されて世界遺産登録を推進するのだから仕方がないと言えば仕方がないが、一応委員会としてそれに賛同する方向に行くのかを議決した上で「世界遺産の方向を助けよう」という意見にならないとおかしいと思う。

【●●委員】世界遺産について、市長と3県市は再挑戦しようということで推薦書を取り下げた。6月の世界遺産委員会で不記載になったら、一生鎌倉の世界遺産登録が出来なくなる。取り下げて、コンセプトを変え、新たな目的で世界遺産に挑戦しようというのが趣旨である。世界遺産登録推進協議会の会長が市長で、統一した意見として「鎌倉は一回取り下げて再挑戦をしよう」ということになった。最終的には文化庁が決定するのだが、文化庁も地元の意見を尊重するというので、ユネスコに恐らく取り下げるかたちで報告があると思う。正式に報告があった段階で、また私たちが召集されるかもしれないし、担当の副市長から話があると思う。それを受けて、また委員会で対応することになるかと思うが、1年や2年で登録されるということはまず考えられないため、その間に交通の課題について検討していくことになると思う。この委員会ではそうなった時に、逆に市に提言したら良いと思う。

【委員長】世界遺産がどちらに進むかについては、ここで決まる訳ではなくて、市民の色々な意見も踏まえて決まるのだと思う。ただ、先程も言った通り、観光客のコントロールがない状態が続くと、色々な面で不都合が多いということも指摘されているので、世界遺産登録の問題以前に、観光に対する我々の普段の生活との関係の整理を行わなければならない。そして、行政や市民が世界遺産登録に向けて更に挑戦しようということであれば、それに少しでも役に立てば幸いである。今後色々な分野で議論して頂き、その報告を受けて、当委員会での議論に入っていきたい。先程、手形の名前は決めて頂いたので、これでPRはできそうである。後は予算が付けばもう少し大掛かりな実験ができると思う。そのために是非、頑張ってもらいたいと思う。その他特に発言なければ、今日の委員会はこれで終了としたい。

3. その他

【事務局】次回の検討委員会は、10月頃を予定している。日程が決定次第、各委員に通知したい。

【委員長】次回の委員会までには、社会実験応募の結果は分かっているので、それを踏まえた議論をするということにしたいと思う。今日、色々注意を頂いたが、専門部会で検討された内容を骨子として提案して頂き、是非、まず実現できるように努力をしていきたいと思う。よろしければ本日はこれで終了する。

以上